アイサン・スピリッツ48 速報
「9th Multi-GNSS Asia Conference」参加のご報告

IR News
Vol.48-14

アジア・オセアニア地域は、世界で最も多くの次世代測位衛星が利用できる地域であり、衛星測位の活用が期待されています。Multi-GNSS Asiaでは、アジア・オセアニア地域での衛星測位のサービスの導入や活用を促進することを目的に、毎年カンファレンスを開催しています。

第9回となる今回のカンファレンスは、10月9日から11日までの3日間にわたり、ジャカルタ(インドネシア)で開催されました。20の地域または国から200名程の参加者が集まり、様々な議論や提案が行われました。

初日は、GPS、Galileo、BeiDou、QZSSの各衛星システムの近況と、将来の計画に関する情報共有が行われ、2020年代にはより多くの衛星、信号、補強情報が利用可能となることが示されました。また、2日目以降は衛星測位の活用に伴う諸問題（例えばジャミング 、スプーフィングのような信号障害、マルチパスによる測位精度の劣化など）に対して、様々な角度からの調査研究および対策が提案されました。また、アプリケーションの分野では、農業などで利用される精密測位や、津波をはじめとした災害対策への取り組み、プローブカーや渋滞緩和などのITS 分野への利用、さらには、身近なLBS※ での利用に関する講演、紹介が行われました。当社は、ITS分野への利用の一例として、「自律走行用の地図の作成手法」を紹介しました。

本カンファレンスの詳細に関しては、右記URLをご参照ください。 http://www.multignss.asia/jp/conference.html

※LBS（ Location Based Service ）：位置情報の活用を中心とするサービスの総称

【カンファレンスの様子】

会場となったAYANA Midplaza Jakartaの外観

「GNSS.asia Challenge 2017」の表彰式も行われました。
http://www.gnss.asia/Challenge

開催国(インドネシア)の方々を始めとして、多くの国と地域から参加者が集まりました。

当社研究開発知財本部からは稲垣が「自律走行用の地図の作成手法」を紹介しました。

【免責とお断り・注意事項】
本通信及び弊社ホームページの記載事項は、株主・投資家の皆様お客様に対する、迅速な情報公開・提供を目的とし、投資勧誘を目的としているものではありません。